～研修医日記～

Vol.2　『妄想』　―妄想研修医編―

医者の仕事とは、患者さんの人生に関わることが出来る実にやりがいのある仕事である反面、
その手を差し伸べるべき愛しい患者さんに対して、不満を抱えてしまうのもまた現実である。

●月●日
診察中にイヤホンを外さず、一方的に喋り続ける患者Ａさんに疲弊する。
僕の問いかけにも一切構わず、マシンガントークは止まらない。
そのイヤホンを今すぐ取って僕の話を聞いてくださあ～～～い！！

▲月▲日
ストマ管理の重要性を説くも患者Ｂさんは「自分一人では出来ない！」の一点張‥‥
なぜ出来ないか尋ねると、「ストマが見えないから…」と答える
いや、今あなたバッチリ自分のストマを指さしてましたよね！
あなたは力士ですかっ？？
（ちなみにほとんどの力士は出っ張ったお腹の影響で下腹部は見えないらしい！）

■月■日
せんせ‥‥せんせ‥‥！　患者Ｃさんが助けを求めるべく悲痛な叫びを上げている。
病棟に呼ばれて駆けつけた僕は、憔悴しきった患者Ｃさんを発見した。
どうしたのかと問いかける僕に彼女はこう答える。
「おしっこ漏れた‥‥‥」

はあ～～～～～～っ‥‥‥。
疲れきった僕はふと研修医室に飾ってあるポスターが目に入った。

こちらに優しく微笑む石田ゆり子のポスターだ ❤❤❤

何を隠そう、僕は石田ゆり子の熱狂的なファンなのだ。

石田ゆり子の著書は全部持っているし、YouTube に上がっているエピソードトークはほとんどチェック済だ。ゆり子がいれば何でも出来る、元気ですか？

もしも…もしも患者さんがみんな石田ゆり子だったら。

喋り続ける石田ゆり子に僕はそっと耳を傾け続けるだろう。
彼女の口からマシンガンの弾丸の如く繰り出される言葉の数々であれば、ぼくの身体をハチの巣にされても何ら悔いはない。

ストマ管理が一人では出来ないと駄々をこねる石田ゆり子に僕はそっと寄り添うだろう。
初めて補助輪を外して自転車に乗る我が子を手取り足取り愛情をもって教えるが如く、ストマ管理を指導するだろう。
例えその不安定な自転車で僕の股間に突っ込まれることがあったとしても・・・・・・

オムツにおしっこを漏らした石田ゆり子の手を僕はそっと握るだろう。
看護師ではなく、1 番最初に僕に報告しようとしてくれた一途さに心が打たれる。
信頼があるからこその行動であり、誰が信頼していない人間に初物を捧げてくれようか。

妄想を終えた僕の前には、優しい世界が広がっていた。
そう、僕は悟ったのだ。
患者さんがもしも石田ゆり子だったら…ではなく、患者さんはみんな愛すべき石田ゆり子なのだ。
いや石田ゆり子でなくてはならない。
僕たちは、石田ゆり子のために全霊で治療にあたり、石田ゆり子のために日々勉学に勤しみ、石田ゆり子のために足繁く病院に通う。
石田ゆり子を愛するのは人として当然のことであり、患者さんを愛することは医者として当然のことである。
石田ゆり子もまた、僕たちに愛されるのを待っている。

僕の中で迷いはなくなった。
さあ、患者さんのために今日も1日頑張ろう！！！

【変集者後記】
この研修医の妄想力は秀逸であり、今後この妄想力で仕事の能率も UP しそうな気配を感じずにはいられない。そして病棟の看護師がもしも石田ゆり子だったら、彼は 24 時間 365 日病棟に張り付くのであろう。そして絶対服従で、自分の仕事に加えて点滴の交換や朝の検温、採血とかも忠実に行うかもしれない。さらにはミスをした時のお仕置きに石田ゆり子のナースシューズのヒールで身体をグリグリされては至極の幸福を感じているに違いないだろう･･････❤
おっといけない💦、私まで妄想癖が伝播してきているようである💦💦････
いずれにせよ、人を前向きにさせるような妄想は悪くはないものだ。